

様式 9

「第2期富士見市シティプロモーション戦略（案）」に対する

意見募集の結果について

令和8年2月27日

シティプロモーション課

意見募集結果及び寄せられた意見に対する市の考え方について、次のとおり公表します。
ご協力に感謝申し上げます

【意見募集の集計結果】

1	意見募集期間	令和 7年 12月 1日（月）から 令和 8年 1月 5日（月）まで	
2	意見の件数	10件	
3	意見提出方法	ホームページ応募専用フォーム	1人
		郵送	1人
		ファクシミリ	人
		直接持参	1人
4	反映状況	A 意見を反映し、案を修正したもの	1件
		B 既に案で対応済みのもの	5件
		C 今後の参考とするもの	3件
		D その他	1件

【募集意見】 (10件)

No	意見概要	市の考え方	反映状況
1	<u>数値目標、人口増減数について</u> 事務処理年報に人口増減数という文言は見当らず、又算出方法も市民には解かりづらい為、注釈 No をつけて伝わる内容にした方が良く考えます。	人口増減数は、自然動態（出生、死亡）と社会動態（転入、転出）の増減数から算出した人口の増減数を示します。 ご意見を参考にさせていただき、人口増減数には注釈を追加いたし	A

		ます。	
2	<p><u>推進体制と進捗管理について</u></p> <p>現状、庁内会議（有識者含む）のみで、主体である市民参画機会（場）が見受けられない為、P23 市民との連携の部分との整合性を図る意味でも、協議体のような、少なくとも意見を徴収する「場」を設け取入れる方が良いと考えます。</p>	<p>ご意見としていただいた協議体について、現時点では設けておりませんが、情報発信や企画等の提案及び実施に取り組む富士見市地域活性化研究会や、市民意識調査、アンケートモニター調査などを通じて、市民意見の把握に引き続き努めてまいります。</p>	B
3	<p><u>庁内連携の強化について</u></p> <p>3-5 9行目の「高揚」という文言。5行目にも危機感という状況が示されている文章の結末部が「高揚」ではいかがなものかと思えます。庁内部分である為、「改革」という文言の方がふさわしいと考えます。</p>	<p>第1期戦略期間においては、研修などを通じて、職員一人ひとりがシティプロモーションの必要性について理解促進してまいりました。第2期戦略においては、さらなる意識の高まりを目指すことから、原案のままとします。</p>	D
4	<p><u>プロモーションについて</u></p> <p>市の認知度向上および若者の認知度アップの為、近年活躍が目覚ましい著名人をPR大使に任命が良いと考える。</p> <p>①YA-MAN（格闘家）</p> <p>富士見市出身のRIZINファイターです。</p> <p>2025年大晦日の格闘技イベントに出場です。</p>	<p>PR大使の任命については、本市の出身者又は在住者で、さまざまな分野で活躍され、マスメディア等への出演又は発言の機会を通じて情報発信力を有する方の中から、市の魅力発信に積極的にご協力いただける方にご本人の同意を得て、委嘱させていただいております。</p> <p>いただいたご意見は、今後新たな</p>	C

	<p>②ラブレターズ（お笑い芸人） キングオブコント 2024 王者。 溜口さんが富士見市出身です。</p> <p>③や団（お笑い芸人） キングオブコント 2025 準優勝 本間キッドさんが富士見市出身で す。 水曜日のダウンタウンで富士見市 のお話されていました。 格闘技イベントやお笑いライブを 開催して集客や知名度向上を目指 す。</p>	PR 大使任命の際の参考とさせてい たきます。	
5	<p><u>プロモーションの方向性</u> 地域の持続性は、地域愛着・積極 的参画・多様な主体との密連携に よって支えられることを明記し、 シティプロモーションを単なる情 報発信に留めず、住民・企業・学 校・行政が協働して地域課題解決 に参加できる仕組みであること、 またそれを市民に呼び掛けるもの であることを戦略に組み込むこと を提案します。</p>	「3-7 市民との連携」（23 ペー ジ）にお示ししているとおり、市 民と連携し、地域資源の活用や新 しい資源の発掘を活用したプロ モーションを目指すことから、原 案のままとします。	B
6	<p><u>戦略の位置づけ</u> 「地域の持続性」は市民の関心で もあり、流入ターゲット層におい ても関心事であろうことから、サ ステナビリティ（環境・社会・経 済）も訴求戦略の核の一つとする ことを提案します。また、ター</p>	本戦略は、第 6 次基本構想・第 2 期基本計画に基づく戦略であり、 第 2 期基本計画においては、持続 可能な開発目標（SDGs）を取り込 んでいることから、本戦略におい ても SDGs の関係性についてお示し しております。	B

	<p>ゲットに「アクティブシニア」も追加明記し、今後さらに割合が増加するシニア層の中でも、特にアクティブシニアを地域コミュニティのコアとして位置づけ、若年層と共に共生、協働する人材の発掘・流入促進をゴールに追加設定することを提案します。</p>	<p>また、ご提案のアクティブシニアについては、「3-2 重点ターゲットの設定」(22 ページ)の記載のとおり反映しております。</p>	
7	<p><u>基本施策と取組について</u></p> <p>以下の具体施策を追加。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・アクティブシニア・アンバサダー育成プログラム：SNS 活用講座、地域課題フィールドワークを通じて地域資源の発信と課題解決を担う人材を育成し、学習意欲と地域、次代への貢献意欲を市の課題解決と持続性の向上につなげることを提案します。 ・デジタルデバイド解消：スマートフォン・SNS 入門、動画制作、情報リテラシー講座を生涯学習講座において体系化し、その後の活躍フィールドとしてシティプロモーションにアンバサダーとして参画いただく。また学習成果を市の公式発信と連動。 ・共創プロジェクト：地元企業・学校・NPO と連携し、循環型経済、環境保全、文化継承などのテーマで学習プログラムと連動し 	<p>本戦略は第6次基本構想・第2期基本計画に基づく戦略となり、具体的な取組について記載はございませんが、具体的な取組をアクションプランとして位置づけ進捗管理を行い、市のホームページで公開してまいります。</p> <p>ご提案の取組については、今後の具体的な検討の際に参考とさせていただきます。</p>	C

	<p>た発信を実装。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生涯学習との連動：市の講座に地域課題をテーマとしたフィールドワークを組み込み、学びをまちづくりに接続、アンバサダーを組成。 		
8	<p>推進にあたって必要な視点</p> <p>生涯学習講座の独自性確保が難しくなっている現状（デジタル化・教育ビジネスの進展・ニーズ多様化）を踏まえ、市独自の価値として「地域課題の実践的学習（フィールドワーク）」と「アンバサダーの社会貢献」を位置づける。SNS活用は実用性が高く、デジタルデバイド解消に資するだけでなく、ミッションを通じて自己肯定感・多幸感の向上を期待できることを明記することを提案します。</p>	<p>生涯学習については、第4次富士見市生涯学習推進基本計画（令和8年度～令和12年度）を策定し、「自由な学びにより生きがいができる」を目標とし、富士見市の生涯学習を推進してまいります。</p> <p>本戦略の推進にあたっては、市内外に富士見市のファンを増やし、持続可能な基礎自治体を目指すために、記載の7つの視点をもって、取り組んでまいります。</p>	B
9	<p>推進体制と進捗管理</p> <p>PDCA運用を強化し、以下のKPIを追加・明確化すること提案します。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・SNSエンゲージメント率／投稿数／到達数 ・移住・定住関連の相談件数／イベント参加者数 ・地域活動参加率／アンバサダー登録数・活動件数 	<p>本戦略のKPIは第6次基本構想、第2期基本計画に基づいていることから、原案のままとします。</p> <p>いただいた具体的な案については、アクションプランの進捗管理の参考とさせていただきます。</p>	C

	<ul style="list-style-type: none"> ・デジタル講座修了者数／受講満足度 ・公共交通利用率／地域産品消費率（サステナビリティ指標） <p>さらに共創ガバナンスとして、住民・企業・学校・行政の密連携体制を明記。</p>		
10	<p>「富士見市シティプロモーション推進戦略会議設置要綱」（資料編）</p> <p>推進戦略会議に、アクティブシニア代表および生涯学習・教育関係者にも参画いただき、地域愛着と参画を高める視点、デジタル活用・フィールドワークの知見を戦略へ反映する仕組みを整備することを提案します。</p> <p>【期待する効果】</p> <p>移住促進と地域経済の循環、環境負荷低減、市民満足度・幸福感の向上を同時に達成し、富士見市の長期的なブランド価値向上に資するものと考えます。特に、アクティブシニアの活躍により、地域コミュニティのコア形成と、若年層との役割分担により持続可能な担い手育成が進むことが期待されます。</p>	<p>要綱で定義する戦略会議並びに推進検討委員会は、庁内における組織として設置しております。</p> <p>戦略の推進にあたっては、シティプロモーション戦略アドバイザーを委嘱し、意見をいただく場を設けているほか、情報発信や企画等の提案及び実施に取り組む富士見市地域活性化研究会や、市民意識調査、アンケートモニター調査などを通じて、市民意見の把握に引き続き努めてまいります。</p>	B